

びわ栽培の作業性を向上！低樹高栽培技術の導入を目指して

～びわ急傾斜地園における低樹高仕立て研修会の開催～

安房農業事務所改良普及課 令和5年7月19日発

本県のびわ産地では、寒害を回避するため、冷気の停滞しにくい急傾斜地での栽培が中心です。一方、作業が困難なほ場が多いため、昨年度実施した研修会で、若手生産者から「急傾斜地でも導入しやすい低樹高仕立てを勉強したい」と要望がありました。

そこで農業事務所では、若手生産者組織である房州枇杷研究会※、JA安房、農林総合研究センターと連携し、急傾斜地園での低樹高栽培技術を周知するための研修会を令和5年7月10日に開催し、19名が参加しました。農業事務所職員が講師となって、生産者の急傾斜地園において講義、実演を行いました。参加者も研修ほ場で実践し、「自分の園でも取り入れたい」と前向きな発言がありました。また、各自の栽培管理方法などの情報交換もでき、有意義な会となりました。

当事務所では、生産者の要望に応え、びわ産地の発展を目指し、活動していきます。

※房州枇杷研究会は、館山市、南房総市の若手びわ生産者42戸で構成される組織



急傾斜地園で整枝方法を指導



各自の管理方法を情報交換する様子